兵庫・新方（しんぼう）遺跡

1　所在地　兵庫県神戸市西区玉津町高津橋
2　調査期間　一九八四年（昭59）五月～八月
3　発掘機関　神戸市教育委員会
4　調査担当者　丹治康明
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　弥生時代前期～鎌倉時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

新方遺跡は明石川とその支流伊川の合流点に近い沖積地に立地する、弥生時代前期から鎌倉時代に至る複合遺跡である。昭和四五年、山陽新幹線建設に先立つ調査によって遺跡の所在が明らかになって以来、民間開発などに関連して小規模な調査が続いている。

（明石）

これまでの調査で弥生前期から鎌倉時代にわたる各種の遺構が検出され、多量の土器・木器類が出土している。この様な成果の内、特に注目されるものとしては、弥生時代中期の貼石を持つ周溝墓、木棺内から出土した人骨、古墳時代後期の玉造工房跡とその遺物などが発見されている。

木簡は遺跡の北辺にあたる玉津町高津橋字高ナギ地区の調査によって出土した。調査によって検出された遺構は掘立柱建物・井戸等で、時期的には鎌倉時代（一四世紀）頃のものである。

木簡は調査地の東南の隅で検出した井戸から出土したものである。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「咄吠哽□律令　□」　437×40×5　051

(2)　×疋□□□